

令和3年1月16日(土)

所在地：愛知県岩倉市川井町 地内
調査原因：川井野寄地区工業用地開発事業
発注者：岩倉市（担当：岩倉市教育委員会生涯学習課）
調査機関：株式会社アーキジオ 中日本支店
調査期間：令和元年9月から令和3年3月
調査面積：約4.3ha（令和元年度：1.7ha、令和2年度：2.6ha）

1 はじめに

岩倉市では、企業庁と共同で取り組んでいる川井野寄地区工業用地の開発事業に伴い、令和元年9月より発掘調査を行っています。

また、開発事業地では今回の発掘調査に先立ち、愛知県教育委員会と岩倉市教育委員会が協力して3回（平成28・29年度：試掘調査、平成30年度：遺跡範囲確認調査）の事前調査を行いました。

今回の現地説明会では、令和2年10月3日の現地説明会以降で判明した調査成果について説明します。

2 遺跡の概要

(1) 地理的環境

下田南遺跡が所在する岩倉市は、木曾川によって形成された沖積平野上の濃尾平野に立地する自然堤防帯に位置します。

市北東部の井上町が標高約12m、南西部の野寄町は標高約7mを測り、市域の地形は北東から南西方向に向かって低くなります。このように緩やかに傾斜する市域の中央を一級河川の五条川が南流しています。

また、下田南遺跡は、南流してきた五条川が大山寺町で西に大曲した約2km地点の右岸に広がる広大な田園地帯の中に所在します。

(2) 歴史的環境

下田南遺跡の周辺には、縄文から弥生時代の集落や、古墳時代後期の円墳などが確認された権現山遺跡(岩倉市)をはじめ、弥生時代から古代にかけての水田遺構が確認された伝法寺野田遺跡(一宮市)、古代の寺院跡で礎石や瓦が出土した薬師堂廃寺跡(岩倉市)などがあります。これらは、古くからこの地域一帯に人々の生活が営まれていた事を証明する遺跡といえます。



下田南遺跡周辺の遺跡

3 これまでの発掘調査成果

(1) 遺構について

発掘調査では、古墳時代(前期:3~4世紀)と古代(飛鳥・奈良・平安時代)から中世(鎌倉・室町時代)にかけての遺構を確認することができました。調査の中心となったのは古代です。

古代の遺構は、竪穴建物をはじめ掘立柱建物、道路状遺構、柵列、集落(施設)の境界となる溝などが見つかっています。

竪穴建物は、遺跡の中央部(1c区・2b区)を中心に40棟以上見つかっています。また、建物が重

なって見つかったことから、同じ場所で何度も建て替えを行っていた事が判明しました。そして、遺跡南端の2c区では、平安時代の竪穴建物が数棟見つっています。

特筆すべき遺構としては、1d区より竪穴の一边が13mを有する大型の竪穴建物が1棟見つっています。建物内部の構造は、後の中世の溝によって壊されているため不明ですが、確認できた柱穴や礎板から、建物の高さは10mを超えていたと思われます。

掘立柱建物は、竪穴建物と同様に遺跡中央部を中心に40棟以上見つっています。建物は、4本柱の正方形から、6本柱の長方形、1間ごとにくまなく格子状に柱を立てた総柱構造の建物などがあり、用途も住居、館、倉庫などが考えられます。また、柱が沈まないように柱穴の底に礎板・礎石を設置していた建物もみつっています。そして、建物の主軸(方向・方位)を観察すると、正方位に沿った建物群と沿っていない建物群など3つに分類されるものの、それぞれの中で整然と建物が配置されていました。このことから、古代の下田南遺跡では短期間に3つの変遷があったと考えられます。

道路状遺構は、遺跡の東端1e区より1条みつっています。道路は東西方向に延び、道路両側には、側溝機能を持つ小規模で狭長な溝が配置されています。道路幅は、側溝の中心軸間で4.2m(約14尺)あります。なお、この道路の延長には薬師堂廃寺跡が在ります。

集落(施設)の境界となる古代の境界溝は、2a区、Rd区、2b区を北西方向から南東方向へ斜めに横断する形でみつっています。この溝を境に南西方向に竪穴建物や掘立柱建物などの遺構が集中し、北東方向では古代の遺構がほとんどみつっていない状況から、この溝が集落(施設)の内と外を分ける境界であったと考えられます。

中世の遺構は、遺跡の北西方向から南東方向へ蛇行しながら横断する3条の溝状遺構を初め、区画溝と思われる遺構が複数みつっています。

(2) 出土遺物について

古代の遺物は、円面硯、転用硯など官人に関係する遺物や、須恵器、灰釉陶器、土師質土器が出土し、土器以外では砥石、紡錘車、土錘・陶錘などが出土しました。また、祭祀に関連する遺物として、勾玉、白玉、土馬などが出土しています。そして、調査中のRg区からは、古代寺院である薬師堂廃寺跡から出土したものと同一文様を持つ軒丸瓦がみつっています。

中世の遺物は、山茶碗、土師質土器、焼締陶器、施釉陶器などが出土しています。

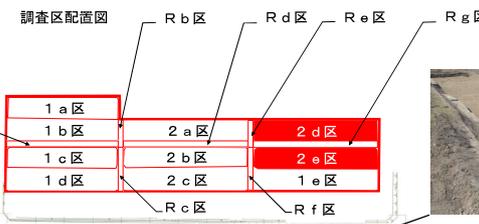
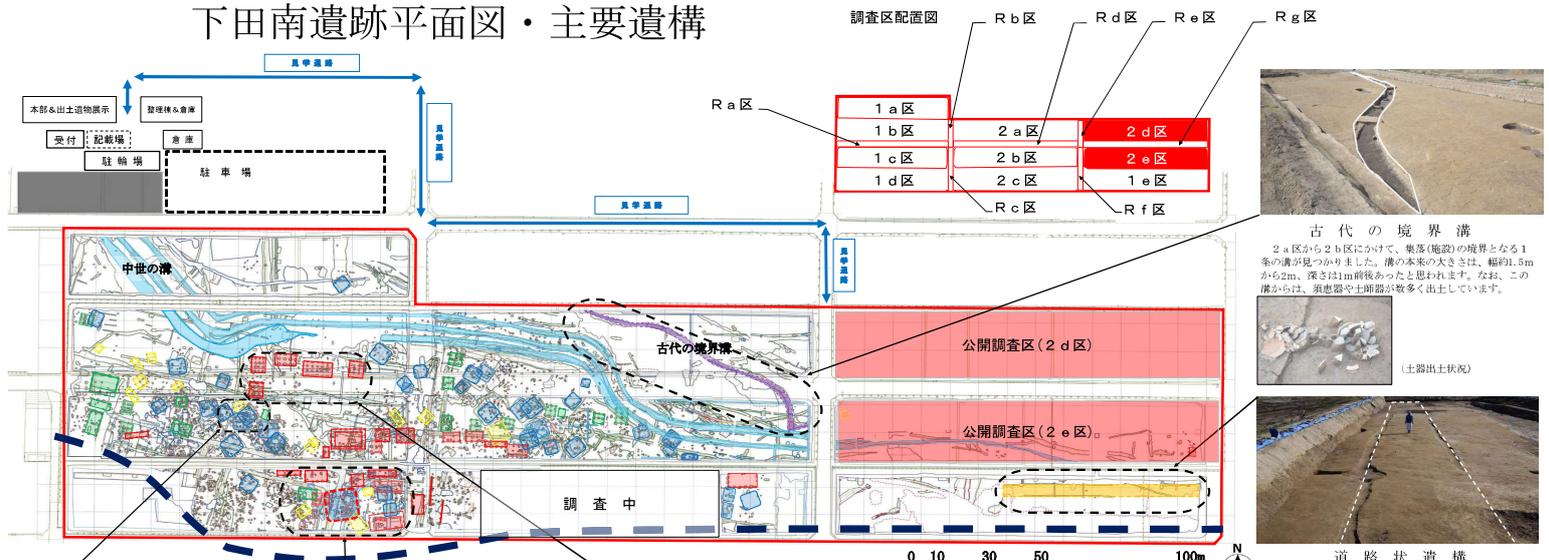
(3) まとめ

今回の発掘調査によって見つかった多種多様な遺構や出土遺物から、下田南遺跡は集落と古代の役所である官衙的な要素を持つ複合遺跡であることが判明しました。それは、古代の倉庫群を彷彿とさせる総柱構造の建物群が確認されたことや、円面硯、転用硯が出土した事が挙げられます。また、薬師堂廃寺跡へ繋がると思われる道路状遺構や、同一文様を持つ軒丸瓦の出土から、官衙を構成する主要施設と寺院との関連が想定でき、これらは、飛鳥奈良時代の岩倉市を知るうえで大きな成果です。

遺跡の変遷としては、6世紀末頃から7世紀初頭にかけて集落の形成が始まり、次に官衙的施設が造営され、8世紀中頃以降に官衙としての機能が無くなり、その後も中世まで人々の生活が営まれていたと思われます。

今後、今回の発掘調査で見つかった遺構・出土遺物の整理・分析を進めるとともに、周辺遺跡との関係や出土遺物の産地などを解明し、下田南遺跡の詳細を明らかにしていきます。

下田南遺跡平面図・主要遺構



古代の境界溝
2 a区から2 b区にかけて、集落(施設)の境界となる1条の溝が見つかりました。溝の深さは、幅約1.5mから2m、深さは1m前後であったと思われます。なお、この溝からは、須恵器や土師器が数多く出土しています。



道路状遺構
道路東側の調査区より、道路状遺構1条が見つかりました。道路は東西方向に延び、道路の両側には側溝機能を持つ小規模で狭長な溝が配置されています。道路幅は、側溝溝の中心軸間で、4.2m(約14尺)あります。そして、この道路を東へ延ばすと基師堂院寺跡に繋がります。



竪穴建物
調査範囲の中央から南西にかけて、40棟以上の竪穴建物が見つかりました。竪穴は全て圓形(すまいるほうけい)で、一辺が5~8m、建物内の北や北西側に竈(かまど)を配しています。



大型竪穴建物
1 d区から、竪穴の一辺が13mを有する大型の竪穴建物が1棟見つかりました。確認できた柱穴や礎石から、建物の高さは10mを超えると思われます。建物内部の構造・用途は、中世の溝や土坑によって壊されていて不明です。



総柱構造の建物群
1 b区から、倉庫として使用されていたと考えられる総柱構造の建物群が見つかりました。北方位に沿って建てられ、集荷場と思われる広場を有し、この広場を囲むように「L」字に建物が配置されています。そして、建物群と広場は、地盤改良された上に造られていたことが判明しました。

凡		例	
	竪穴建物		道路状遺構
	大型竪穴建物		古代の境界溝
	掘立柱建物(第1期)		中世の溝
	掘立柱建物(第2期)		旧五条川流路(中世~近代)
	掘立柱建物(第3期)		発掘調査範囲

4 令和2年度後半の調査

2d 区の調査経過

2d区からは古墳時代初頭頃の溝、古代の土坑、中世の溝や方形土坑等が見つかっています。古墳時代の溝(62号溝)からは土師器の甕・壺・高坏が出土していますが、住居等の生活に直接関わる遺構は見つかっていません。

古代の遺構は用途不明の土坑等が確認されていますが、2d区よりも南西方向の調査区で見つかっているような竪穴建物跡や掘立柱建物跡は全く確認できず、土器等の遺物も少しか出土していません。このあたりは集落の居住区域からは外れていたようです。

中世の溝は東西方向と南北方向のものがあり、ほぼ正方位に沿って掘られています。方形の土坑は大小様々な大きさで、大きいものでは長辺が4mを越すものもあり、いくつかの土坑が密集してグループを作っているようにみられます。どれも掘ってすぐに埋められたようで、土坑の中からは土器等はほとんど出土しておらず、はっきりとした用途はわかりませんが、お墓として掘られた可能性が考えられます。



62号溝から出土した土師器 (2d区)南から



22号溝から出土した山茶碗 (2d区)南から



方形土坑群1 (2d区)上から

Rg 区の調査経過

Rg区は現在、遺構を見つける作業を行っており、その際に軒丸瓦が出土しました。

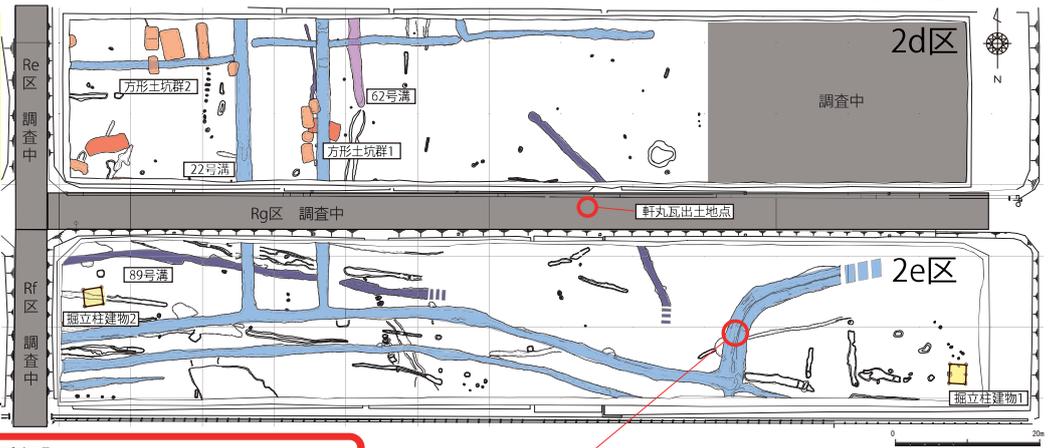
この軒丸瓦は単弁八葉蓮華文と呼ばれる文様が施されており、白鳳時代(7世紀後半頃)のものと思われる。同様の瓦が下田南遺跡の東側に位置する薬師堂養寺跡から出土しています。今後の調査で、寺院に関連した遺構や遺物の出土が期待されます。



軒丸瓦 (Rg区)



※軒丸瓦
軒先など屋根の縁端を飾るために、丸瓦の端に瓦当と呼ばれる円形の飾板をつけたもの。



2e 区の調査経過

2e区は中世と古代の大きく2つの時代の遺構面があり、現在は主に中世の遺構を調査しています。

中世の遺構面では溝が大小合わせて16条、土坑8基、掘立柱建物跡が2棟(1間×1間、1間×2間)見つかりました。遺物は山茶碗、甕、中世土師器等が出土しています。

調査区南側の東西に延びる大きい2条の溝は1a区、1b区、2a区、2b区から続いています。

部分的に古代の遺構も確認されており、2a区から続くと考えられる古代の区画溝の中からは須恵器の甕が出土しました。



89号溝から出土した須恵器 (2e区)南西から



中世の溝土層断面 (2e区)北東から



掘立柱建物1 (2e区)南東から



主要な出土遺物

令和元年9月から開始した下田南遺跡の発掘調査も、間もなく終わりとなります。令和2年2月と10月に現地説明会を開催しましたが、今回が最後の現地説明会となります。下田南遺跡からは、主に古代と中世の遺構が確認されています。今回の出土遺物の展示では、これまでの発掘調査で見つかった下田南遺跡の性格がよくわかる遺物を選別して展示しています。

古代(飛鳥・奈良・平安時代)：生活関連遺物

16 軒丸瓦
R区<包含層>
百濟時代(7世紀中頃~8世紀初頃)

4 灰釉陶器 皿(墨書)
1d区<89号溝>
平安時代(9世紀末~10世紀頃)

2 砥石
1c区<検出面>
飛鳥時代(7世紀)

3 紡錘車
1d区<表土>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)

5 勾玉
2b区<417号住居>
飛鳥時代(7世紀)

12 土師器 甕
2b区<27号土坑>
飛鳥時代(7世紀)

14 土錘・陶錘
1a区/1b区/1c区
飛鳥時代(7世紀頃)

古代(飛鳥・奈良・平安時代)：役所関連遺物

17 円面碗
1c区<322号土坑>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)

18 円面碗
1c区<98号柱穴・135号溝>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)

19 円面碗
1d区<表土>
奈良時代(8世紀初頃~前半頃)

中世(鎌倉時代~)

22 暗紋土器 坏
1c区<327号溝>
飛鳥時代~奈良時代(7世紀末~8世紀初頃)

26 山茶碗(墨書)
1d区<壁面>
室町時代(15世紀頃)

27 山茶碗(墨書)
2e区<南壁>
鎌倉時代(13世紀)

- 資料に掲載していない展示遺物
- 青磁 皿 1b区<117号溝>平安時代末期~鎌倉時代初頭(12世紀後半)
 - 須恵器 蓋 2b区<004号柱穴>奈良時代(8世紀前半)
 - 須恵器 碟 2a-2区<166号溝>飛鳥時代(7世紀中頃)
 - 須恵器 高坏 2a-2区<166号溝>飛鳥時代(7世紀初頭~中頃)
 - 須恵器 無台坏 2a-2区<166号溝>飛鳥時代(7世紀初頭~中頃)
 - 須恵器 珠蓋 2a-2区<166号溝>飛鳥時代(7世紀中頃)
 - 須恵器 ハソウ 2a-2区<166号溝>飛鳥時代(7世紀初頭~中頃)
 - 須恵器 坏身・坏蓋 2a-2区/2b区 飛鳥時代(7世紀初頭~中頃)/飛鳥時代(7世紀後半)
 - 須恵器 透孔付き高坏 1c区<250号溝・表土> 飛鳥時代(7世紀中頃)
 - 礎板 1d区<829号柱穴>飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀頃)：写真展示
 - 礎板 2b区<142号柱穴>飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀頃)：写真展示
 - 暗紋土器 坏 2c区<004号柱穴>飛鳥時代~奈良時代(8世紀初頭)
 - 転用碗(須恵器蓋を碗に転用) 1d区<795号住居>奈良時代(8世紀前半)